

病気に関するミニ講座

CT検査で分かる病気編

診療放射線技師が行う検査の一つにCT検査があります。これは、身体にX線を照射し、通過したX線量の差をデータとして集め、コンピュータで輪切り状態*にした断面像を構成することによって身体内部の構造を詳しく調べる検査です。

*他、1mm以下の幅で輪切り画像を多数積み重ね、画像処理を行うことで、任意角度の断面像(MPR)や、血管や骨などの3次元画像(3D)を得ることも可能

1 どんな病気がわかる?

●CT検査でわかる病気の例を紹介

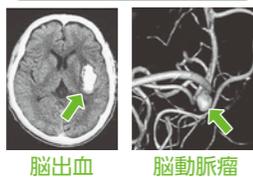
CT検査は様々な目的で、多くの診療科からの依頼を受け検査を行っています。撮影、画像処理を行い、診断に有用な情報が提供できます。

■頭部

脳腫瘍、脳出血、脳梗塞などの頭蓋内病変や外傷による頭蓋骨折などを診断可能。

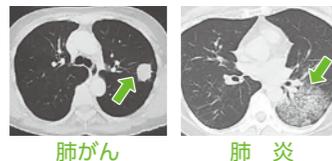
造影剤(*)を使用して撮影することで、腫瘍の診断や脳血管の動脈瘤や狭窄の診断などを行います。

こんな風に撮影されます



■胸部

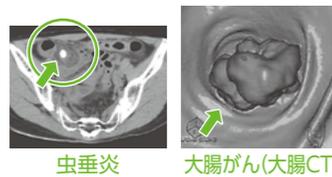
一般撮影では分かりにくい小さな肺病変の診断ができます。肺がん、肺結核、肺炎、肺気腫、乳がんなどの診断を行います。



■腹部

臓器(肝臓、腎臓、膵臓など)や血管の状態、腫瘍の有無を診断。

当院では大腸診断のため、お尻から炭酸ガスを入れて撮影する大腸CT検査も行っています。



■手足

肩関節、肘関節、手関節、足の股関節、膝関節などの3D画像を作成することにより骨折や脱臼などを立体的に観察可能。



放射線課

渡邊 直紀
(わたなべ なおき)
診療放射線技師

造影剤(*)を使用して、動脈瘤・閉塞性動脈硬化症(ASO)・腫瘍の診断も。

(*)造影剤とは、画像診断をしやすいお薬の事です。CT検査で用いられる造影剤は一般に血管に注射し使用します。



骨折



閉塞性動脈硬化症(ASO)

2 5月7日「新機種導入」

検査に伴う患者さんへの負担を軽減するための様々な機能や技術が追加され、これまで以上に安全で高品質な検査を提供することが可能に!

●特徴1: AI搭載3Dカメラによる自動ポジショニング

患者さんの体型の情報を自動で取得し、最適なポジショニングで撮影ができるようになります。これにより、以前より前回画像との比較がしやすくなることや、患者さんに合ったX線量の検査が可能となります。

●特徴2: 次世代画像再構成技術搭載

(画像ノイズ低減と密度分解能の向上) 次世代画像再構成技術により、きれいな画像が可能になります。さらに患者さんへの被ばくを減らせます。体格の大きい方や、体内金属のある方の画像ノイズの低減にも効果を発揮します。



●特徴3: 高速撮影

以前より高速撮影が可能となりました。これにより撮影に必要な息止め時間を短くできます。また動きによる画像への影響が減るため、より精細な画像を得ることが可能となります。(当院従来品比)

●CT検査に限らず、検査をうける際に不明な点などございましたら、検査担当スタッフにお気軽におたずねください。

2020年5月1日発行/発行所 伊藤 孝

聖隷沼津病院

せいれい通信

2020 May No.207



呼吸器外科では肺がん、気胸のほか、胸水や胸部外傷など幅広い呼吸器疾患に対し、専門医の資格を持った医師が、患者さんのお体にダメージが少ない医療を提供することを目標に取り組んでおります。



医長 中里 顕英

主な疾患

- 腫瘍性疾患: 肺がん、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫
- 肺のう胞性疾患: 気胸、肺気腫
- 感染性疾患: 胸膜炎、膿胸
- 胸部外傷: 外傷性気胸、血胸、肺挫傷
- その他: 血痰、胸水貯留、多汗症など
- 検診: 肺がん二次検診、アスベスト検診

患者さんへのメッセージ

当科では、東海大学呼吸器外科と連携し、肺がんに対する完全内視鏡下手術を行っています。患者さんの負担軽減を一番に考え、傷が小さく、ダメージが少ない手術で、術後早期の社会復帰の実現を目指しています。(気胸や縦隔腫瘍に対しても、その技術を応用した内視鏡下手術を積極的に行っています。)また、気胸・外傷の救急搬送の受け入れから、住民検診・職場健診で精密検査が必要とされた方の二次検診も行っております。二次検診は原則として初診日にCT検査から結果説明まで行っているため、結果を早く知ることができ、何度も通う必要がありません。地域の病院として柔軟に対応するよう心がけておりますので、ぜひご相談ください。

外来担当日

受付時間・曜日	月	火	水	木	金	土
午前中のみ 7:30~11:30	-	中里	-	中里	-	濱中 (第1・3・5週) 中里 (第2・4週)

お問い合わせは下記に遠慮なくご連絡ください。

特に記載がない限り、本紙は2020年4月末時点の内容です。

当法人は、7月に創立70周年を迎えます。本誌に、感謝メッセージを連載で掲載させていただきます。



シリーズ② (全4回)

法人創立
70周年に寄せて

一般財団法人 芙蓉協会 理事

聖隷沼津健康診断センター 所長 矢部 雅己

1945年(昭和20年)7月17日のB29の空襲で沼津は焼け野原となり、当院の前身である須田病院も焼失してしまいました。

戦後、この悲惨な状況下の中、十分な医療を受けられない地域住民の苦境を知った米国人W.H.ダンフォース氏の物心両面でのご支援のおかげで、昭和25年7月4日須田病院は新しく芙蓉病院として再出発することが出来ました。

その後、幾たびか、資金面や人材面で困難な状態に陥りましたが、その都度、多くの人々の暖かいご支援をいただき、立ち直り今日に至りました。

この様に、多くの人々のご支援でできた今日の病院・健診・在宅事業は、ご支援して下さった多くの人々が育て上げた地域の財産だと、私は思っています。

私達職員一同は今までの多くの人々のご支援に感謝し、この地域の財産としてよりふさわしい病院・健診・在宅事業にすべく努力を続けていきます。

これからも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

「70周年と私」Memorable Episode

~2018年の出来事~

「T先生が車から降りた所で倒れた」と連絡を受け現場に駆けつけました。

T先生「すいません。職場(読影室)へ連れて行ってください。」私「先生、今は仕事ではなく、治療が必要です。病院へ行きます。」これがT先生との最後の会話になりました。

当時、年齢のことで、迷っていた私は、最後まで現役を買った初代健診所長のT先生の生き方に勇気をもらいました。

【私たちの原点】

1950年(昭和25年)7月4日、晴天に恵まれるなか、内科・産婦人科を主とし、診察室、レントゲン、手術室、病室を備えた芙蓉病院が開院しました。(場所は現在の第2駐車場に建てられました。)

日米親善と平和の標とし、米国独立記念日の7月4日を新たな船出の日(創立の日)としました。



TEL.055-952-1000
FAX.055-952-1001
〒410-8555 沼津市本字松下七反田902-6
http://www.seirei.or.jp/numazu-hp/

